

穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会 会議概要

委員会名 第4回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会
日時 平成23年3月10日(木) 10:00~12:00
場所 市民活動センター 南会議室
出席者 腰原委員、川上委員、勝野委員、北澤委員、塚田委員、衛藤委員、土屋委員、河村委員、辻谷委員、宇留賀委員、臺委員 市側出席者 大内商工観光部長、高橋観光課長、赤羽観光施設係長、丸山(真)主査、丸山(武)主査 公開・非公開の別 <u>公開</u> ・非公開 傍聴人 0名 記者 1名
協議事項等
1.会議概要 (1) 開会 (2) あいさつ (3) 協議事項 ①前回意見の確認 ②穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会の意見集約 ③その他 (4) その他 (5) 閉会
2.会議要旨 ◇検討する範囲が広すぎて意見が絞れないと思うので、資料2の論点整理の各項目について協議してもらいたい。温泉を最大限活用した施設については異論がないと思う。(委員長) ◇論点整理で挙げられていることは、安曇野市宿泊施設等あり方検討専門委員会議(以下『あり方』という。)の提言がある中で最初から決まっている感がある。若干異論はあるが、貴重な資源であることは間違いない。住民・宿泊業者が活気づかなければいけない。日帰り入浴施設の建設で納得せざるを得ない。どのようにしたら最大限に生かせるか。安曇野市民・観光客に満足していただけるか、この委員会で結論が出せるか疑問もあるが、日帰り入浴施設を提言できればいいと思う。(委員) ◇日帰り入浴施設と周辺整備について提言したい。(委員長) ◇温泉を活用するのは当然の話で、それに伴う施設をどういうものにするのが重要である。市の財政状況を考えて費用をかけて宿泊施設の建設が難しければ、日帰り入浴施設でいいと思う。地元の人利用も当然であるが、それだけでいいのか。市民のためであれば温泉健康館で十分である。そうでなければ集客できる施設にしなければいけない。地域審議会でしゃくなげ荘改築及び周辺整備について検討し、『改築にあたっては、良質な温泉としゃくなげ荘を安曇野市の重要な資産と位置づけ、現在併設の温泉健康館を統合し、露天風呂をはじめ各種入浴設備と休憩・飲食提供を備えた日帰り利用の宿泊施設を検討されたい。』と提言する予定である。(委員) ◇穂高地域審議会の提言も踏まえて意見を出してほしい。(委員長) ◇温泉を最大限活用した施設には異論はない。(委員)

◇温泉を最大限活用した施設という点は提案したい。(委員長)

◇基本的に市民を中心とした企画をし、そのためのスペース空間として機能すればいいと思う。そこに当然日帰り入浴施設の建物があって、地域の人がいろいろな形で集まってイベントをやったり、自分たちで楽しんだりすることがあればいい。その場所で集まっているいろいろなことを企画して楽しんでいく習慣というか、そういう場所にならないとせっかくお金をかけて建て替える意味がなくなってしまう。ただの日帰り入浴施設になってもしょうがない。ハード面では日帰り入浴施設、ソフト面で地域の方が何か活動できるような仕組みができればいい。例えば会合があればなるべくその場所を使うとか、そういう形にしていけば会合が終わって一風呂浴びていくかというような利用の仕方が増えていくと思う。基本的には地域の方のコミュニケーションの場をどうやって作っていくかという意味では、地域の方がこの施設が改築された後にここではこんなことがしたいから、ここにはこういうスペースが必要だからということで要望を出せばいい。(委員)

◇非常に難しい。どういう意見で集約されるか心配。日帰り入浴施設の方向性の流れができていく感じがする。そこまで踏み込んでいか分からないが、結局行政としては宿泊施設の環境にないと書いてあったが、どのように環境整備するのか。全て市民の税金でやるのか、合併特例債が使えるか分からないが、民間の費用は対象外なのかよく分からない。前提として安曇野市が全て資金を出しての整備なのか。民間活力を導入するならば、宿泊施設を作らない条件は付けるべきでないと思う。お金がかかるので箱物がいらないとと言われるが、ただ日帰り入浴施設だけでいいのか。周辺施設としてビフ穂高も関連があるが、インフォメーションセンターも必要。もっとビフ穂高も拡大して将来的には道の駅にできればいい。周辺整備をどうしていくか。宿泊にまだこだわりもある。今から宿泊業者が活気づくとは疑問に思う。今までも温泉を活用していた。使い方に問題があった。我々が資金面まで考える必要はないかもしれないが、国の補助金を使うのか分からないが、健康促進のため福祉のためというが、『鹿教湯』のようになってほしくない。健常者のことも考えてほしい。健常者については忘れられがちなので、福祉と併せて考えてほしい。(委員)

◇例えば、いつごろ実施するのか。指定管理についてはどうなっているのか。(委員長)

◇しゃくなげ荘自体の意見であったり、全体的な意見であったり、議論が交錯して前に進んでいかないと思う。一つ一つ問題を少し整理して今回の資料を作った。温泉を最大限活用した施設に異論はないと思う。温泉を活用しない手はない。しゃくなげ荘に代わるものは必要で、市民が天然温泉を享受するための施設はどこにあってもいい。温泉があればいい。どこにあってもいいことが前提である。次の段階としてその施設がたまたま穂高温泉郷にあると、安曇野市の観光の中心にもなっている地域に現在穂高温泉郷がある。その中にしゃくなげ荘がある。代替施設を考える時にそれだけでいいのか。行政としては財政面、国の方針を踏まえれば、行政が宿泊施設を整備するのは非常に困難な問題がある。しかし穂高温泉郷の拠点となる施設を作るならば、そして市民以外の利用も考えるならば、多少の宿泊施設を備えたほうがいいという意見も当然あると思う。民間活力も検討して、宿泊施設の整備も考えてもらいたいという意見もあると両論併記してもかまわないと思う。行政ができなくても穂高温泉郷全体のことを考えれば、そこには多少の宿泊機能を備える必要があるという意見も大事にしたい。論点整理する時にいきなり穂高温泉郷から入るのか、個別のことから施設をまず市民向けの天然温泉の施設がどこにあってもいい状態から、最終的に現在の穂高温泉郷に置いた時にどうなるのか、全体的な意見を徐々に膨らませていただきたい。前後してもいいが、そんなイメージで意見を出してほしい。(事務局)

- ◇日帰り入浴施設の意見が出ているが、それで観光客を呼び込むのは大変。住民中心になる魅力がなければ難しい。気軽に住民が行ける施設で満足するとなれば、穂高温泉郷の核となる施設を作らなければいけない。いろいろな浴室などが必要と話をしてきた。今までの意見が何であったのか。コミュニケーション・憩いの場ができると思う。大衆浴場的なものになってほしくない。(委員)
- ◇日帰り入浴施設を重点的に検討してほしい。肉付けの方法を検討してほしい。(委員長)
- ◇市が公金を使う立場で言うと宿泊施設は難しい。民間の資金が導入されれば話はまた別であるが、資金をどうするのかはこの場では議論できない。民間活用した場合、宿泊も検討となってもいいと思う。(事務局)
- ◇ハード・ソフト両面でいろいろあると思うが、方向性を出さなければいけない。(委員長)
- ◇一番大切なのはしゃくなげ荘をどうするかが大事。核となる施設にすることで住民が楽しめるスペースにすること。気をつけなければいけないのは、大衆的なものになると価値がなくなってしまふ。見通しを立ててゆとりの中で住民・観光客が楽しめるものでなければいけない。(委員)
- ◇地元住民から考えると内容は幅広いが、先に進むためには日帰り入浴施設と結論を出して、どういうものにするか話を持っていくべきで、周辺整備を考えて気楽に行くとなれば、駐車場から近くにあることが理想で、観光的に考えると駐車場をうまく接続した建物、大型バスが停まれるか、タクシーのターミナルになれるような余裕のある駐車場が必要だと思う。イメージすればそんな感じで、宿泊にこだわらず、日帰り入浴施設について考えたほうがいい。(委員)
- ◇周辺整備について意見がほしい。(委員長)
- ◇何が進んでいるが見えてこない。(委員)
- ◇検討の範囲が広く論点が見えづらいと思う。(委員長)
- ◇今回の意見集約が全てではない。最終的に判断するのは市であるが、皆さんの意見を参考にして、市が決定する。宿泊については行政ができないということである。支援については模索することも必要だと思う。ハードでなくソフトの面は周辺整備でも大事。安曇野市は民間活力も活発な地域なので、安曇野市が主体となって宿泊施設整備する環境ではない。(事務局)
- ◇論点が定まらないと思うが、いろいろな意見を出してほしい。指定管理などについて事務局に説明してほしい。(委員長)
- ◇しゃくなげ荘については今年度3月31日で指定管理期間が終わり、再募集で平成26年3月31日まで指定管理になる。今度の指定管理期間が終了する前に市も方向性を示したい。農林部も『ほりで一ゆ〜四季の郷』などの施設を持っている。農林部とも公共の宿について意見をすり合わせていきたい。民間で是非やりたいという意見があれば、参考にさせていただきたい。(事務局)
- ◇あと3年は現状どおりだと思う。天蚕センターなどについて意見はないか。(委員長)
- ◇できるだけ1〜2年の内に方向性を出したい。天蚕センターは老朽化が著しい。安曇野のブランドの1つであるが、今のままでは観光としては物足りない。できれば周辺整備の中で考えていきたいが、財政面で厳しいと思うが、提言として天蚕センターの整備を入れてもいいと思う。(事務局)
- ◇いろいろな施設が老朽化しているが、資源もたくさんある。周辺整備も難しいことも多いと思う。(委員長)
- ◇しゃくなげ荘を中心に、穂高温泉郷の基幹施設となるための条件は、周辺も含めて楽しい。わくわく感があるということが必要。そういうことでまとめていくと単なる入浴施設ではなく、食べ

るものがある、体を動かせる、何か付け加えていかなければいけない。周辺にビフ穂高があるがまだ狭い面もあるので、増築、ゆとりのある施設になればいい。天蚕センターを周辺に持っていくのもいい。周辺を歩いて散策して楽しむこともいい。施設を作る時のコンセプトにすればいい。

(委員)

◇具体的に何かあるか。(委員長)

◇昨日ビフ穂高の総会があり、市長がしゃくなげ荘や周辺のことについて組合員に話された。穂高が観光の拠点である。そのために商工観光部を穂高へ持ってきたと強調された。当然、『あり方』の意見が一人歩きした気がするが、市長は廃止について強調していなかった。今後も事務局は3年以内と言っているが、悠長な事は言ってはられない。他にも宿泊施設があるので、しゃくなげ荘については部長が触れたが、何回委員会をやってもその都度尻すぼみになっている。穂高町時代のことがまだ解決できていない。優先順位ということは聞き飽きた。第1回に提示された資料の航空写真を見ただけで、何とかしようという気にならないか。今の検討委員会より先に進んだ委員会を立ち上げてもらいたい。(委員)

◇3年の指定期間は営業保障しなければいけない。できるだけ早く市の方針を出して、建設検討委員会を立ち上げたい。(事務局)

◇しゃくなげ荘は廃止の議論はここではしていないと思う。基本的には改築あるいは改装ということだと思う。とりあえず宿泊は難しそうで、日帰り入浴施設の機能にどういうプラスαを付け加えていくかで話が進んでいると思う。地域の方が何かそこでイベントの企画をしたり、楽しいことをできるような、打ち合わせをする会議室的なスペースが是非あったらいいと思う。ある程度観光客の利用を想定すると、当然観光情報を得られることが必要で、パンフレットを並べてあるだけでなく、周辺の施設やこのそば屋さんがおいしいとか踏み込んだ情報提供してもらえると観光客はありがたい。例えばそば屋さんがたくさんあり、あまり時間がないのですぐ食べられる店はどこか、地元の人たちがよく集まる店はどこかなど、答えられることが必要だと思う。必ずしもスタッフがなくてもいい。今どきネットで検索できればいいと思う。日帰り入浴施設では観光客があまり来ないという意見があったが、もうそういう時代ではなくなっている。日帰り入浴施設として人気のある施設も全国にはたくさんある。施設の中身・アクセス・周辺施設とのリンクが大事である。銭湯という意味ではなく、最初はなるべくシンプルで、お客さんが来て収入が多くなったら少しずつジャグジーなどいろいろな風呂も増やせばいい。健康増進で鹿教湯温泉が例に出る。鹿教湯温泉のクアハウスは健康増進施設で作られたときは画期的であったが、利用客は激減し苦戦している。それを超える施設を作るのはかなり準備と検討が必要である。健康増進にはあまり踏み込まなくていいと思う。気軽に温泉に入浴できてリラックスできて気持ちがいいというレベルでスタートできればいいと思う。最終的に施設が充実していけばいいのではないか。最初はスタートしやすい範囲で、予算も企画もイメージできればいいと思う。(委員)

◇大きなコンセプトがあってそこから決めないと話が進まない。何を基準に考えるのかもよく分からないが、宿泊施設の対応が悪いと言われてそれ以上の意見が言える立場か分からないが、もっこの地域をどうしていくか決めないと意見の出しようがないと思う。もう少しコンセプトをきちっと持ってこうあるべきと話すべきだと思う。(委員)

◇しゃくなげ荘をどうするのか。周辺をどうするのか。いろいろな意見があっただけで、論点が定まらないとは思っていない。(委員長)

◇地域審議会できちんと取りあげてきたことで、当初宿泊施設を伴う改築あるいは再構築であったが、『あり

方』の提言を覆すのは難しいということで、今回の審議会の提言では日帰り入浴施設を出した。単なる入浴施設でなく、あの場所は観光的に市の財産として活用していかなければいけない。市民だけでなく観光客も集客しなければいけない。山麓を活性化しなければと考えてきた。1つはある程度長時間いることができるものにしてほしい。休憩・飲食・テナントを入れて販売など、これだけでは十分でない。ビフ穂高・天蚕センター移築、周辺を歩いて回れるコースを作って滞在型にできればということを提言であらわした。そしてアクセスの問題、東西路線をしっかりしてもらいたい。山麓線を歩いて楽しめる場所にするために、今のままでは危険。美観も重要。穂高が観光の拠点で多勢の人が携わっているので、みんなが潤う形を考えなければいけない。ハードだけでなく受け入れ体制、おもてなし、住民がそんな気持ちを持つ。地域が良くなってそれを観光客が見てくれて、安曇野で過ごしてくれることになればいい。しゃくなげ荘ということだけでなく地域をどうするか、大きな意味で考えなければいけない。(委員)

◇基本的なことは承認をいただけたと思う。(委員長)

◇地域審議会の提言にも非常に建設的なことが出されている。周辺整備も含めて出されているが、他にも提案してもらえば参考になる。ハードを整備したから人が来るわけではなく、天蚕センターを整備して移築して、ビフ穂高を増築すればいいということではない。結びつけるのはソフト面が大事だと思う。ウォーキングコースの整備も進めているが、それだけでは人は来ない。何か魅力があり、買い物ができたり、歩いて楽しめるものがなければいけない。素材は十分にある。山麓線沿いには、アートヒルズや小岩嶽城址や鐘の鳴る丘集会所などもある。どうやって結びつけるかが大事。平成23年度には電動アシストのレンタサイクル事業に取り組んでいきたい。アルプスあづみの国営公園の中にインフォメーションセンターを設けて観光案内をしてもらっていて、ブランドデザイン会議に委託しているが4月からは観光協会に委託してさらに1名増員して4名体制を計画している。アルプスあづみの国営公園のインフォメーションセンターとビフ穂高で場所をお借りして、2ヶ所に電動アシスト自転車を置いて周遊してもらうことも考えている。ヤマハに提供していただく。市もいろいろ考えている。皆さんのご意見を市が今後検討していくための参考にさせていただきたい。具体的になれば財政部局とも協議して、一番良い方法を模索していきたい。建設的な意見をお願いしたい。(事務局)

◇周辺整備については範囲が広くて意見が出しづらいと思うが、しゃくなげ荘に限定せず議論をしたい。(委員長)

◇市は何もしてないわけではない。『おひさま』にからめてもいろいろやっている。観光案内板の整備もやっている。ハードもソフトも含めて整備しないと集客につながらない。次回は最終なのでまとめたい。(事務局)

次回 平成23年3月下旬の予定